

平成 20 年度第 1 回 地盤工学会 技術者教育委員会議事録(案)

日時：平成 20 年 4 月 17 日（木）15:30～18:00

場所：名古屋大学工学部 9 号館 230 号室

参加者：中野，大橋，坪田，村田，前田，竹内（敬称略）

資料

資料 1：技術者教育と技術の伝承（中部地質調査業協会 中部ミニフォーラム資料）

資料 2：継続教育の具体案 H13~14 年度技術者教育委員会成果報告書より

資料 3：H19 年度第 3 回技術者教育委員会議事録

資料 4：H19 年度第 2 回技術者教育委員会議事録

資料 5：H19 年度第 1 回技術者教育委員会議事録

資料 6：H19 年度 会員支部部会の活動(検討課題)に関する対策・検討状況一覧表

資料 7：スケジュール表

資料 8：DS 企画案

議題

(1) 新メンバー追加

＊第 5 期技術者教育委員会追加メンバー

坪田邦治 委員 （ジオ・ラボ中部）

村田芳信 委員 （NPO 地盤防災ネットワーク）

前田健一 委員 （名古屋工業大学准教授）

→ 次回理事会にて承認

(2) 技術者教育委員会 経緯および趣旨説明（中野委員長）

＊第 1 期～第 4 期技術者教育委員会 実施成果および課題

＊第 5 期技術者教育委員会 昨年度活動報告

- ◆ 7 試案に対する現状（具体的アクションなど）の評価・問題点の整理をまずメンバー個々で行い、とりまとめる。それを 5 期の成果として中間報告や最終報告書に盛り込む。
- ◆ 例えば、e-learning に関しては、液状化に関するコンテンツを学会が作成している(費用：2000 万円)。普及するための広報活動が必要。
- ◆ CPD：全国大会副座長の導入の提案。

(3) フリーディスカッション

＊DB

- ◆ 総務部・広報委員会との連携が必要。H21 年度予算化の為にコンテンツ抽出・DB 設計を 9 月中までに行う必要がある。
- ◆ 地盤工学会の DB の現状は各組織が持っている DB がバラバラに存在しており、メンテナンスに多大のコストが必要になっている。DB や HP の効率化を総務部(?) 中心に進め

ている段階である。

- ◆ 国際化との関連で、留学生 DB の内容もコンテンツに盛り込む。
- ◆ 技術者以外にも「ISO の違い？」等、国際的に使える設計基準の DB も将来的には必要。

＊技術の伝承，技術者の地位向上・社会貢献

- ◆ 「技術の伝承」と「技術者の地位向上・社会貢献」を別々に取り組む。WG というよりもそれぞれ大橋委員、村田委員を主査として骨子を作成し、本委員会で議論していく。
- ◆ 「技術の伝承」は、伝承が不十分である現状（ボーリング技術，マニュアル，設計マニュアルの背景）を整理し，その中で，アクション可能な課題について，具体的にアクションまで示す。シルバー委員の活用が鍵となる。支部における活動を念頭にいているため，中部支部でモデルケースを実施する。また，中部地質業協会とも連携して、「サロン」の設置。また、伊勢神宮遷宮の事例にならったコンテンツの準備。
- ◆ 「技術者の地位向上・社会貢献」は、学会でできる NPO 活動の考案。公開講座やセミナーなどは，自治体が主催するが，後援という形で学会が貢献できればいい。防災に対しては，各自治体に自主防災組織があり，熱心な自治体（愛知県，名古屋市）への呼びかけなどで，社会貢献，地位向上を実現できると思われる。村田委員には，取り組み方も含め，骨子を作成して頂きたい。また防災だけでなく，歴史などもテーマになる。
- ◆ 他支部も先行している分野があるので，連携し情報交換を行う。
- ◆ 支部ベースでも実行可能な手法を「中部支部モデルケース」として考案・情報提供。

(4) その他

＊地盤工学会全国大会 DS における活動

- ◆ 地層処分 DS の紹介
- ◆ 「技術者交流セッション」の現状に関する議論。(NPO として応募したのにリアクションがなかった!?)

＊次回開催日程予定： 6/18(水) 15:30～ 於 名大

5 月末までに、7 試案に対する現状照査を実施し、それを元に、中間報告案を、中野、大橋、竹内で作成、6 月の委員会に提示する。